

いずみのひろば

2023年8月号
日本基督教団関東地区
NO.535 教会学校



とりなしてくださいさるイエスさま

ハプライイ人への手紙2章14-18節

いま 今からおおよそ 2000年前、イエスさまがこの世で生活されたユダヤ地方はローマという大帝國に支配されていました。その時、そのユダヤ地方の統治を任されていたのは、第5代総督のポンテオ・ピラトでした。総督ピラトのもとに、ユダヤの指導者たちがイエスさまを連れてきました。イエスがローマ皇帝に背いているから十字架につけよというのです。さっそく取り調べをしたけれど、ピラトにはイエスさまが十字架で死刑になるような悪いことをしたとは思えません。ちょうど過越の祭りの季節で、祭りのときに罪人を一人赦すことができるという慣例に従って、イエスさまを釈放しようとピラトは民衆に呼びかけました。しかし、ユダヤの指導者たちにそのかされた民衆は、こぞつて「イエスを十字架につけろ」と叫んだのです。とうとうピラトは、民衆の要求を受け入れてイエスさまを十字架刑とする裁判の判決を出しました。

イエスさまを十字架につけることは、権威ある正式な形の裁判で決められました。しかも、当時の世界を支配するローマ帝國の裁判です。しかし、この裁判の自身はでたため、イエスさまを妬み、敵視するユダヤの指導者たちがイエスさまを殺したい一心で仕組んだことでした。十字架の死は、これ以上ないくらいに苦くて、辛くみじめな死に方です。イエスさまはご自身で十字架を背負って歩かされました。ローマ兵にはつばを吐きかけられ、頭をたたかたり、ののしられました。木に釘で、手と足を刺し貫かれて、はりつけにされました。手足の痛みはもちろん、呼吸もできなくなるそうです。そして、十字架の上で息を引き取られました。

本来、神さまのことを忘れて妬みや憎しみに支配されている、ユダヤの指導者や民衆たちが神さまに対して罪人でした。しかし、イエスさまはそれらの人々の罪を背負って十字架にかかれ、人々の代わりに神さまの裁きを受けました。

イエスさまの十字架は人間を罪から救い出すための、私たちを愛する神さまのご計画です。この十字架こそが神さまがイエスさまをこの世に送ってくださった目的です。祭司は罪を贖うために動物のいけにえを捧げてとりなしを祈りますが、イエスさまはご自身を人間の罪を贖ういけにえとしてさげられました。イエスさまは、人間と神さまとの関係をとりなして下さる「大祭司」なのです。私たちもまた、ポンテオ・ピラトにむかって「十字架につけろ」と叫んだ民衆と同じ罪人です。イエスさまが死んだのは、私たちのためでもあります。そして、その十字架によって、私は神さまに赦されていると喜ぶことができます。そのことを覚えて、使徒信案によって「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ」と告白しているのです。

おぼい やすゆき せんせい
おはなし(大井康之先生)

いざみのひるば



とりなしてくださるイエスさま

ヘブライ人への手紙2章14-18節



今からおおよそ 2000年前、イエスさまがこの世で生活されたユダヤ地方はローマという大帝国に支配されていました。その時、そのユダヤ地方の統治を任されていたのは、第5代総督のポンテオ・ピラトでした。総督ピラトのもとに、ユダヤの指導者たちがイエスさまを連れてきました。イエスがローマ皇帝に背いているから十字架につけよというのです。さつそく取り調べをしたけれど、ピラトにはイエスさまが十字架で死刑になるような悪いことをしたとは思えません。ちよほど過越の祭り季節で、祭りのときに罪人を一人赦すことができるという慣例に従って、イエスさまを釈放しようとピラトは民衆に呼びかけました。しかし、ユダヤの指導者たちにそのかされた民衆は、こぞつて「イエスを十字架につけろ」と叫んだのです。どうとうピラトは、民衆の要求を受け入れてイエスさまを十字架とする裁判の判決を出しました。

イエスさまを十字架につけることは、権威ある正式な形の裁判で決められました。しかも、当時の世界を支配するローマ帝国の裁判です。しかし、この裁判の中身はでたらめで、イエスさまを姑み、敵視するユダヤの指導者たちがイエスさまを殺したい一心で仕組んだことでした。

十字架の死は、これ以上にないらいに苦しくて、辛くみじめな死に方です。イエスさまはご自身で十字架を背負って歩かされました。ローマ兵にはつばを吐きかけられ、頭をたたかたり、ののしられました。木に釘で、手と足を刺し貫かれて、はりつけにされました。手足の痛みはもちろん、呼吸もできなくなるそうです。そして、十字架の上で息を引き取られました。

本来、神さまのことを忘れて妬みや憎しみに支配されている、ユダヤの指導者や民衆たちが神さまに対して罪人でした。しかし、イエスさまはそれらの人々の罪を背負って十字架にかかれ、人々の代わりに神さまの裁きを受けただのです。

イエスさまの十字架は人間を罪から救い出すための、私たちを愛する神さまのご計画です。この十字架こそが神さまがイエスさまをこの世に送ってくださった目的です。祭司は罪を贖うために動物のいけにえを捧げてとりなしを祈りますが、イエスさまはご自身を人間の罪を贖ういけにえとしてささげられました。イエスさまは、人間と神さまとの関係をとりなしてくださる「大祭司」なのです。

私たちもまた、ポンテオ・ピラトにむかって「十字架につけろ」と叫んだ民衆と同じ罪人です。イエスさまが死んだのは、私たちのためでもあります。そして、その十字架によって、私は神さまに赦されていると喜ぶことができます。そのことを覚えて、使徒信条によって「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ」と告白しているのです。

おおいやすめさ先生
おははし(大井康之先生)